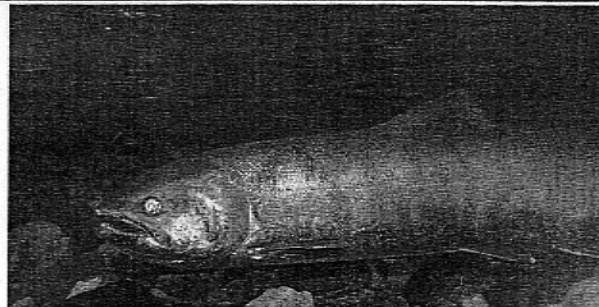


# サクラマス育つ「ゆりかご」



サンル川のサクラマス(下川自然を考える会提供)



「ダム建設でサクラマス産卵床の埋没、シジミ漁の資源減少などが心配」。北海道北部、天塩川水系のサンル川に多目的ダムを建設する計画に住民らから不安の声があがり、四国の四万十川とならぶ豊かな自然と清流を守れと関心を集めています。

北海道総局・小高卓男記者



「天日を通らず」と書きとめています。現在も流域全体は森林に覆われ、雨が降っても川の水が濁らないほどです。

## 水害対策に疑問

ところが北海道開発局(国の機関)は「下流の水害」対策、名寄市の水道水、農業用水などを名目に、総事業費530億円のところ国と道は約100億円をつき込んでいます。現在、道・道の付け替え工事がすすみ橋脚が建設されていますが、ダム本体は着工されていません。

住民、自然保護団体などがシシノボや現地観察会を開き、治水、利水効果を疑問の声が寄せられています。12月初旬、旭川市などでアメリカの自然再生の専門家「河川流域全体を考えよう」と講演し、国際的にも注目を浴びています。

ダム建設予定地は、日本海にそそぐ天塩川の最上流域。毎年春、千〜3千尾もの天然サクラマスが産卵のため遡上(そじょう)します。大きなダムのない170キロの距離を遡上するのは国内では「奇跡」といわれます。

暮末(1987年)に、サンル川を調査した冒険家・松浦武四郎は「天塩日誌」に「枝葉陰深くし

# 奇跡の川ダム造るな

## 産卵床が消滅

今年2月、ダム建設に大きな疑問を出したのが天塩川下流の北るもい漁協(360人、今隆組合長)です。前年にダム予定地を視察し、サクラマスの産卵床が消滅すると危機感を抱きました。名産のシジミ漁への影響も懸念され、同漁協はダム建設反対を表明しました。

最近、河川改修や泥炭層の流出などで、シジミに赤さびが付着し、1981年に約2500トあった水揚げが、05年には約380トと7分の1に激減しています。

同漁協(天塩支所)の理事で、長年シジミ漁を

続けている菅井好文さん(57)はいます。

「シジミの漁獲が落ち込んでいながら、ダム建設の影響が心配される。ダムとの因果関係が解明できないというが、ダムができてからでは遅い。ダム本体の着工には反対です」

菅井さんは5月、日本共産党調査団をホストで案内。

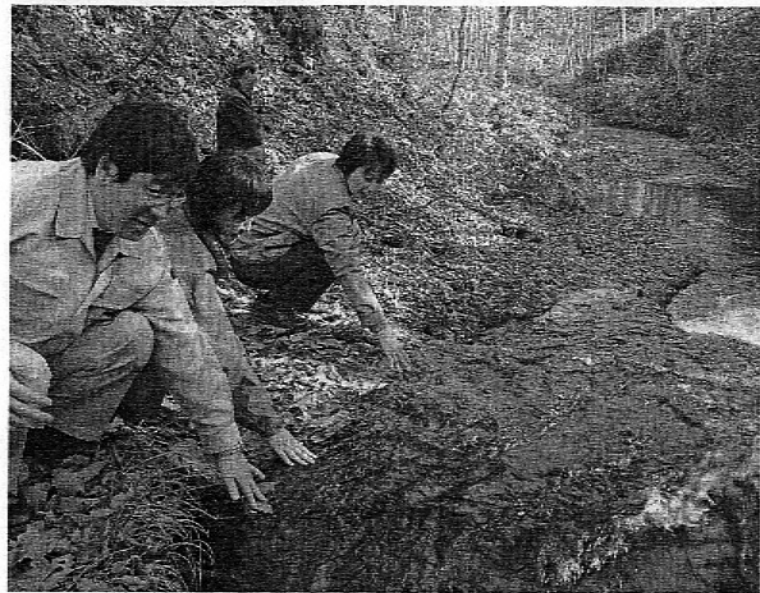
調査団のひとり大橋晃道議は「漁協のみさんの生活と環境を守りながら、シジミは環境のバロメーター」とのべ道に対策を要求しました。

カメランで道内の河川を撮りつづけている神田一俊さん(57)「道自然保護協会理事」は、

「川はサクラマスやサケが生命をはぐくむ場。その秘密は川底に十分なすきまがあり、伏流水がわいていることです。サンル川のような天然の川でこそ産卵できる。ダムによって、『生命のゆりかご』を壊すことは許されません」と語りつづけています。

11月、紙智子参院議員ら党国会議員調査団が天塩川河口の漁協と話し合い、サンル川上流の住民と懇談、現地調査しました。

紙議員は「北海道遺産にもなっている天塩川、サンル川の貴重な自然を守るため、無駄な公共事業ダムを見直したい。国会でたたかっています」と話しています。



サンル川上流を調査する紙智子参院議員(右)。左端は宮内聡・党国会議員団道事務所長=11月5日、下川町